



資産運用こぼれ話 企業不祥事への二つの対策

寄稿：岡本 和久

相変わらず企業による不祥事が多いのは驚くばかりです。日本の企業に対する信頼が失われるとともに、上場企業であれば全世界の株主に対して被害を与え、日本のマーケットに疑問を持つ世界の投資家も増えるのではないかと憂慮されます。確かに各企業とも一応、コンプライアンスを重視する姿勢を見せ、また、外部通報制度などを導入したところも多いと聞いています。それでも相変わらず不祥事が続いている。私は二つの根本的な対策があると考えます。



企業は誰のものかという議論が時々あります。株主のものか、社員のものか、お客様のものか、あるいは社会のものか・・・、いろいろな議論がありますが、要するに企業は生活者のものなのです。生身の生きた生活者のものです。この中で企業活動に直接、携わっているのは会社で働いている人々です。それは経営トップからスタッフまですべての人です。これらの人々がなぜ過ちを起こすのか。私はトップと実務者の両面での意識改革が必要だと思っています。

問題の一つは不祥事を起こした企業および企業のトップに対する罰則が軽すぎることです。米国などと比べ日本の罰則が軽いことはよく知られています。企業の文化を変えていくのはトップです。企業トップへの罰則が非常に重ければ、トップは全力で企業内に不正行為が起こらないように努力をするでしょう。コンプライアンスが「きれいごと」ではなくなるのです。万一、不正行為が起こるとトップ自らが個人的に大きな責めを負うことになる。トップが「絶対に不正をするな」という強烈なメッセージを社内に出すことで多くの問題を防ぐことができるでしょう。もちろん、「忖度」の余地があってははいけないのです。

もう一つは仕事をしているスタッフの行動です。自分は従業員だから上司の言うことは少々、疑問があっても聞かなければならないと多くの人が考えてしまいがちです。「会社のためだから」というマジック・ワードが不正や隠ぺいの余地を生むのです。そこで重要なのがプロフェッショナリズムということです。プロは自分の職業に誇りと愛情を持っています。そのプロフェッションの社会的な立場を高めることを重視して仕事をします。上司の命令がプロの価値観に合わなければ徹底的に議論すべきです。法律的な違法行為は言うに及ばず、もっと重要なのはプロとしての行動規範や倫



長期投資仲間通信「インベストライフ」

理観です。昔は自らの仕事に強いプライドを持つ職人がたくさんいました。会社人である前に職業人だったのです。本当の職業人、プロを育てることが企業不祥事を防止することになり、結局、それが企業のためになるのです。

トップの発するメッセージのトーンが「不正、隠ぺいは絶対に許さない」というものになり、働くスタッフが自分の仕事に誇りと愛情を持つプロになっていけば不祥事がなくなるだけでなく、日本の企業そのものが強く栄光ある存在になれるのだと思います。

(この原稿は投資手帖 2019年9月号に寄稿したものに加筆修正を加えたものです)